

福祉団体・福祉関係者



柱1 災害を自分事化する P22

【目指すべき姿】

自分の命は自分で守れるよう
主体的に防災に取り組む

【主な役割】

- 誰もが災害に備えられる仕組みを整え、要配慮者のニーズを取り入れた防災知識の普及と啓発に貢献

【取組み例】

- 支援ニーズの可視化と地域内での共有伝達
 - ・ 防災イベント開催に協力し、福祉の視点やニーズを紹介 など
- 要配慮者の「自助」を支える備えの提案
 - ・ 要配慮者本人や家族に対する福祉視点の備えについての助言 など

柱2 地域の防災活動の実効性をあげる P30

【目指すべき姿】

地域住民が互いに助け合い、
自分たちの地域は自分で守る

【主な役割】

- 避難所運営訓練や個別避難計画の作成への協力を通じて地域の「共助」の体制構築に貢献

【取組み例】

- 要配慮者の状況に応じた計画づくりに必要な事項について助言
 - ・ 個別避難計画の作成・更新に必要な事項について学び地域に助言 など
- 避難所運営訓練への専門的知見の提供
 - ・ 地域の防災訓練に参加し、車いすの移動介助体験などを通じた対応力の向上をサポート など
- 包括支援センター・社会福祉協議会等との連携のもとで進めるBCPの作成

取組みの参考となる事例

『地区社会福祉協議会が主体となった地域の防災活動』 P47

柱3 幅広い担い手を育成する P38

【目指すべき姿】

専門的な知識と技能をもった
リーダーや
担い手を育成

【主な役割】

- 業種や専門知識を活かして地域防災に貢献できる、災害対応力の高い人材を育成

【取組み例】

- 要配慮者の状況に応じた計画づくりに必要な事項について助言
 - ・ 専門的知見に基づく災害への備えや災害時の行動手順についての習得 など
- 地域防災活動への参画を通じた担い手の育成
 - ・ 地域の防災訓練への参加や、地域の課題を踏まえた防災に関する協議の場への参画 など